

○ヒルナミン錠・▼レボトミン錠 [内] ・▼ヒルナミン筋注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 レボメプロマジン (内服：マレイン酸塩、注射：塩酸塩) Levomepromazine Maleate/Hydrochloride 【分類】 精神安定剤

【単位】 ○5mg・△25mg・▼50mg/錠、▼25mg/A [1mL]

【常用量】 ■内服：25～200mg/日 ■注射：1回25mg

【用法】 ■内服：分1～3 ■注射：筋注

【透析患者への投与方法】 透析患者の投与方法に言及した文献はないが、脂溶性薬物であるため減量する必要はないと思われる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 抗幻覚妄想作用はクロルプロマジンと同等だが、催眠鎮静作用と情動安定作用は本剤の方が強い。5-HT₂ 受容体の拮抗剤として、またドパミン D₂ 受容体に拮抗して抗精神病作用を示す。統合失調症、躁病、うつ病における不安・緊張に用いられる。

【主な副作用・毒性】 血圧低下、汎血球減少、麻痺性イレウス、遅発性ジスキネジア、錐体外路症状、肝障害、悪性症候群、SIADH、不眠、錯乱、SLE、過敏症、アカンジアなど

【安全性に関する情報】 抗ドパミン作用の他に、抗コリン作用、α受容体遮断作用、コリンエステラーゼ阻害作用がある (1)

【F】 資料なし (1)

【tmax】 1～4hr (1)

【代謝】 肝の CYP2D6 で代謝 (1) スルホキシド・グルクロン酸抱合体・脱メチル体は活性を有する (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 1%，スルホキシド 10% [po, 24hr まで] (1)

【CL】 2.63 [0.60～4.94] L/min [po] (1) 61L/hr [im] (1) CL/F は個人差が大きい [おそらく F の個人差] (Dahl SG, et al: Eur J Clin Pharmacol 11: 305-10, 1977)

【t_{1/2}】 未変化体 15～30hr, スルホキシド 15±3.9hr (1) 16.5～77.8hr (Dahl SG, et al: Eur J Clin Pharmacol 11: 305-10, 1977)

【蛋白結合率】 90%以上 (1)

【Vd】 29.8±8.7L/kg (1)

【MW】 364.93

【透析性】 ほとんど透析されないとと思われる (5) 血液透析膜の透過性は低い (1) 除去されないとと思われる (Andersson SB, et al: Artif Organs 7: 340-3, 1983)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない 【O/W 係数】 631 [1-オクタノール/buffer, pH7.4] (1) 【pKa】 9.15 (1)

【相互作用】 CYP2D6 で代謝される他の薬剤の代謝を阻害する可能性がある (1) アドレナリンの血圧反転 (1)

【更新日】 20230417

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。